

市のお手紙 第2巻 第6号

平成21年 三冬月号

2009年12月 1日発行

茨木市PTA協議会

平成21年度スローガン

つながることから
はじめよう!

平成21年度基本理念

「参加しなければならぬ市」から、「参加しなければもったいない市」へ。

このお手紙は
次の3人の人に向けて
書いています。

- ①「PTAなんて、自分には関係ない」と思っている方。
- ②「子どもたちのために何かしてあげたいけど、何をしたらいいのかわからない」という方。
- ③「喜びやつらさを分かち合える仲間が欲しい」と思っている方。

↓ INFORMATION ↓

第55回大阪府PTA研究大会が、1月30日(土)10:00より

事実は一つ、考え方は二つ。

11月21日(土)、第34回茨木市PTA大会を開催させていただきました。

今回の大会は全く新しいチャレンジであったため、各方面にずいぶんのご心配とご迷惑をおかけしてしまいました。反省点もあります。課題も多く残しました。また、お叱りも受けました。

しかし、それでもあえて私は、今回の大会は大成功だったと申し上げたいと思います。一步を踏み出し、チャレンジし、多くの出会いと、協力と、感動を山ほど得られたこの大会、どれだけ批判を受けようと、私に後悔はありません。後悔とは、チャレンジできたのにしなかったとき、全力を尽くさなかったと自分が知っているときだけに起るのだと思います。

この世の中に完璧というものはおそらく存在しません。ですが、完璧を目指すあまり考え込んでしまい、肝心の行動を起こせなくなっているのはよくあることです。行動を起こさなければ、なにも変わらず、進化もありません。

もし仮に完璧というものが存在

するとしても、実は「完璧というもののほど、低い基準はない」のかもしれませんが、なぜなら、完璧だと満足した時点で進化が止まってしまうからです。

何事も、完璧である必要は無いのではないのでしょうか。行動が起これないよりも、最初は20点でも30点でも、チャレンジすることが大切だと思います。それを次には40点にし、50点にしていけばよいと思うのです。重要なのは行動を止めないこと、進化を止めないことだと私は思います。

よく、「未来と自分は変えられるが、過去と他人は変えられない」と言われます。ですが、とらえ方、解釈の仕方、過去は変えることができるのではないのでしょうか。

失敗は、途中で放り出すと単なる失敗で終わってしまいます。ですが、あきらめなければ失敗はありません。(一時的に)失敗したときにも、背筋を伸ばして前進し続けるエネルギーと意志を持っている限り、失敗は生きてきます。経験になります。

「兆(きざ)し」という字があります。たしか5年生で習う漢字だったと思います。訓読みでは兆し、音読

次ページへつづく

みでは兆(ちょう)です。兆しというのは「物事が起ころうとしている徴(しるし)や様子」という意味です。この兆しという字に「しんによろ」をつけると「逃げる」という字になります。ですが、「てへん」をつけると挑戦の挑、「挑(いど)む」という字になります。目の前にある事実は同じでも、とらえ方次第でその意味は180度変わってきます。

革新的な活動も、歳月とともに清新さが失われ、惰性化していくのが世の常です。しかし、そうしなければ新しい発展はありません。

新しい取り組みは、往々にして波紋を呼ぶものです。新しいことに取り組むには大きなエネルギーが必要です。難しいことに取り組むのにも大きなエネルギーが必要です。しかし、前例がないからといって、大変だからといって何もしなければ、なにも進歩しません。“前例がない”という壁を打ち破る——それはきのうの自分を超越する“勇気の第一歩”だと思うのです。

一歩を踏み出して行動を起こしていくところから、すべてが始まります。時代の変化とともに変えるべきものと、時代の変化がどうあろうとも変えてはいけないものが見事に融合した「新しい時代にふさわしい市Pのカタチ」を模索して、変化を嫌ったり、失敗を悔やんだりすることなく、今から、ここから、この一歩から、歩み始めたいと思います。

ご参加・ご観覧下さった皆さん、どうもありがとうございました。

P TAのやりがいてなんだろう？

現在各単Pでは、次年度の役員さんの選出活動が活発に行われているようです。

私は昨年、市P会長として16校園の単Pを訪問させていただきました。そして、①現在、単Pで困っていること ②市Pに望むこと を中心に、それぞれの単

Pの特色ある活動をお聞かせいただきました。その中で、各単Pが抱える最大にして共通の課題が「次年度の役員選出」の問題でした。

そもそも、PTAって何のために、あるいは誰のためにあるのでしょうか？

PTA運動はアメリカが発祥の地で、日本では昭和21年にGHQの指導下で、当時の文部省がその設置を奨励し、始まりました。

そんなPTA活動も、時代の大きなうねりの中でいま、分岐点を迎えています。とりわけ最も大きな課題が、動員などによる「しかたなく……」という消極的参加と、「めんどうくさい」「関係ない」という不参加の増加現象です。残念ながらPTAを取り巻く状況は“明るい”とは言えません。しかしそれは、決して子どもたちをとりまく環境が、PTA活動を必要としなくなったことを意味するのではなありません。むしろこんな時代だからこそ、私たちは積極的なPTA活動をしていかなければならぬのではないのでしょうか。

何かをやろうとしたとき、できない理由を探そうと思えばいくらでも出てきます。なぜかはわかりませんが、どうやら人間は、できる理由よりもできない理由を探す方が得意なようです。時間が無い、経験が無い、知識が無い、能力が無い、前例が無い、お金が無い……。

もちろん、PTA活動は、「楽」なことばかりではありません。苦勞もあります。ですが、楽しい活動をやりがいを持ってできるのが、PTA本来の姿だと思います。お互いに情報交換しあい、共に支えあってひとりではできない活動を一緒に作りあげていく——それがPTAだと思います。

日常、意識せずに当たり前になっている物事が、実は様々な力に支えられて成り立っています。そして支える人の苦勞は周囲からは見えにくいもの。何気なく、当たり前のように案内を受け取り、PTA

行事に参加しているとわかりませんが、想像力を働かせれば、そこにある陰の力に気づくことができます。どこの単Pにも、誰も見ていないところで、会員のみなさんのため、子どもたちのために、地道にそして真剣に努力している人がいてくださいます。その人たちのおかげでPTAが成り立っていると言ってもいいかもしれません。

PTAは、単なる親睦団体ではなく、ましてや個人的利益を追求する団体でもありません。私たちは、子どもたちが豊かな心や社会性、個性や想像性を育み、夢を持って成長することができるような環境、安全で快適な学校園の環境を、学校や行政と協力して作り上げていくために活動する団体のはずです。

みんな誰かに支えられ、そして誰かを支えているものです。自分にできることでそれが誰かの役に立つ、いわば得意技を誰でも持っているものです。ひとりで全ての穴は埋められません。一つひとつの穴を、一人ひとりが埋めていけばいい。みんなで埋めていけばいい――。

育児は育自(いくじ)とも言われます。人生の中でPTAに関われるのはわずかな期間です。「子どもの幸せ」を判断基準に、みんなで共に成長しあえるPTA活動に、あなたも参加してみませんか？ もし、指名委員さんがあなたのところに来られたら、ぜひ引き受けてみてください。そこにはきっと、多くの出会いと感動が待っているはずですよ！

小学生の登録者1人当たり35.9冊で過去最多

全国の図書館が07年度に小学生に貸し出した本は、登録者1人当たり35.9冊と過去最多だったことが、文部科学省の社会教育調査でわかりました。04年度の前回調査を2.9冊上回り、貸出数の調査を始めた74年度(16.5冊)と比べると2.2倍になっ

たそうです。

この調査は3年に1回実施されています。学校の図書室などを除く全国の公私立図書館数も、04年度に比べ186施設増の3165施設と最多で、貸し出した本は延べ6億3187万冊に上るそうです。うち小学生に貸し出した本は延べ1億3420万冊で、登録している小学生の平均利用回数は6.7回だったそうです。

小6と中3が対象の全国学力・学習状況調査(07~09年)では、全体的に読書時間が減少していることが分かっており、「本好き」とそうでない子どもの二極化がうかがえます。

大人の図書館利用も活発化しているようです。登録者全体の1人当たり年間貸出数は18.6冊で、74年度の1.3倍になっています。文科省は「施設が増えて身近になり、新刊も含め蔵書が充実してきた。景気の影響もあるかもしれない」と、利用増の要因を分析しています。

私も図書館をよく利用します。茨木には中央・中条・水尾・庄栄・穂積と図書館が5館あります。それぞれに特色がありますので、仕事で近くまで行った時にはよく立ち寄ります。

私はおそろく年に100冊ぐらいは借りていると思います。もちろん、すべての本を最初から最後まで読んでいるわけではありませんが。

読みたい本を全部買うのはお金がかかりますし、置いておく場所にも困ります。それに、買った本だと面白くなかったり、勉強にならなくても、元を取ろうとして、どうしても最後まで読んでしまわずから時間もかかります。だから私は、図書館で借りて読んでから買う、ということも珍しくはありません。図書館の本だと、途中で読むのをやめることができますので時間の節約にもなりますし、返却期限があるので必要な本はがんばって読み進めることができます。

白 分の人生の鍵を握るのは自分自身だ!
～ビリー隊長講演会～

平成22年2月20日(土)、
大阪府PTA協議会・人権啓
発委員会(委員長:射場一
之)では、「ビリーブブートキャ
ンプ」で一世を風靡したビ
リー隊長ことビリー・ブランク
ス氏を講師に迎え、講演会
を開催いたします。



この講演会の内容の一部をご紹介しますと……。

- ◆ヤル気に火をつけるビリー隊長の習慣とは?
- ◆ビリー隊長が家族のために心がけていることは?
- ◆少年期は原因不明の失読症で悩み、また股関節の疾患で正常に動くことができなかつたビリー隊長の心のよりどころとなつたものとは?
- ◆ビリー隊長にとって家族とは?

などです。会場は大阪市内ですが、わざわざ参加されても絶対に後悔はさせません! 皆様のご参加をお待ちしております。

演題:「家族の絆 ～子として親として～」

講師:ビリー・ブランクス

日時:平成22年2月20日(土)14:00～16:00

場所:中央会館 ホール(大阪府中央区島之内)

(地下鉄堺筋線・長堀鶴見緑地線

「長堀橋」下車 徒歩8分)

費用:無料

※申し込み方法等、詳しいことは別途お配りする案内チラシをご覧ください。

発行責任者

茨木市PTA協議会

会長 射場 一 之

茨木市新和町16-19

電話 072 (635)1134

Fax 072 (632)3900

Email ashihara_pta@iba.co.jp



市戸へのお手紙

皆様のお便りをお待ちしております

お仕事などで忙しい方も、隙間時間を利用しこの紙面でのPTA活動に、ぜひご加下さい。『市戸のお手紙』の感想や市戸への提案など何でもお書き下さい。FAXでも、メールでもOKです。また、この用紙ではなく広告のうら面などに書いてお出しいただいてもかまいません。よろしく願いいたします。

【単戸名:

お名前:

】

※無記名でもOKです。



頂いたご意見を、『市戸のお手紙』にご紹介してもよろしいですか?

OK!

匿名ならOK! (匿名:

) ダメ!